

This Page Is Inserted by IFW Operations  
and is not a part of the Official Record

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

## **IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning documents *will not* correct images,  
please do not report the images to the  
Image Problem Mailbox.**

特開平11-112814

(43)公開日 平成11年(1999)4月23日

(51)Int.Cl.<sup>4</sup>  
 H 04 N 1/409  
 G 06 T 1/00  
 5/20  
 H 04 N 1/405  
 f. G 06 F 17/14

国別記号

F I  
 H 04 N 1/40 1 0 1 C  
 G 06 F 15/66 3 3 0 P  
 15/68 4 0 0 A  
 H 04 N 1/40 1 0 4  
 G 06 F 15/32 A

審査請求 実質審 請求項の数 9 O.L. (全 17 頁)

(21)出願番号 特願平9-271626

(71)出願人 000005201

富士写真フィルム株式会社  
神奈川県南足柄市中宿210番地

(22)出願日 平成9年(1997)10月3日

(72)発明者 井上 駿幸

神奈川県足柄上郡完成町宮台738番地 富士写真フィルム株式会社内

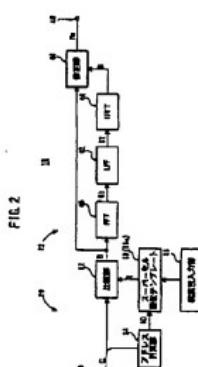
(74)代理人 弁理士 千葉 剛宏 (外1名)

## (54)【発明の名称】 純点画像データの修正方法およびその装置、純点画像データの修正方法

## (57)【要約】

【課題】 画像出力装置の出力解像度と周波数との干渉により発生するモアレ成分を低減する。

【解決手段】 位置空間上の純点画像データHをFFT40により周波数空間上のデータS1に変換した後、純点の基本周波数成分より低い低周波ノイズ成分を含むデータS2をLPP421により抽出し、抽出した低周波ノイズ成分を含むデータS2を位置空間上の画像データNにIFFT441により逆変換する。そして、逆変換された画像データN上にノイズ成分を含む画素と対応する位置にある純点画像データH上に画素を前記ノイズ成分が小さくなるように修正部46で修正する。この修正処理は、位置空間上で処理であり、見通しがよく簡単にを行うことができる。このように修正した後の純点画像データHbにより生成された2値純点画像上では、モアレ縮がほとんどなくなる。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】位置空間上の網点画像データを周波数空間上のデータに変換するステップと、前記周波数空間上のデータから前記網点の基本周波数成分より低い低周波ノイズ成分を含むデータを抽出するステップと、

抽出した低周波ノイズ成分を含むデータを位置空間上の画像データに逆変換するステップと、

前記逆変換された画像データ上のノイズ成分を含む画素と対応する位置にある前記網点画像データ上の画素を前記ノイズ成分が小さくなるように修正するステップとを有することを特徴とする網点画像データの修正方法。

【請求項2】請求項1記載の方法において、前記位置空間上の網点画像データを周波数空間上のデータに変換するステップは、

前記位置空間上の網点画像データに基づいてオンオフする記録ビームにより記録材料上に走査記録するための記録ドットの形状と前記記錄ビームの径に基づき前記位置空間上の網点画像データを構成する各画素の露光量を算出し、算出した画素毎の露光量に対して前記記録材料の濃度特性を参照して画素毎の濃度を算出し、算出した画素毎の濃度から構成される網点濃度データを周波数空間上のデータに変換するステップとすることを特徴とする網点画像データの修正方法。

【請求項3】請求項1または2記載の方法において、前記周波数空間上で、前記低周波ノイズ成分を含むデータを抽出するステップでは、人間の視覚特性により重み付けして抽出するようにしたことを特徴とする網点画像データの修正方法。

【請求項4】位置空間上の網点画像データを周波数空間上のデータに変換する周波数変換手段と、

前記周波数空間上のデータから前記網点の基本周波数成分より低い低周波ノイズ成分を含むデータを抽出する低周波通過フィルタと、

抽出した低周波ノイズ成分を含むデータを位置空間上の画像データに逆変換する周波数逆変換手段と、

前記逆変換された画像データ上のノイズ成分を含む画素と対応する位置にある前記網点画像データ上の画素を前記ノイズ成分が小さくなるように修正する修正手段と、を備えることを特徴とする網点画像データの修正装置。

【請求項5】請求項4記載の装置において、

前記周波数空間上のデータから低周波ノイズ成分を含むデータを抽出するステップでは、人間の視覚特性により前記低周波ノイズ成分を重み付けして抽出するようにしたことを特徴とする網点画像データの修正装置。

【請求項6】絶対、角度、線形形状を考慮され、所定の数値範囲をとる閾値が配置された網点閾値データ中の閾値の配置位置を修正する網点閾値データの修正方法であって、

前記網点閾値データを構成する閾値がとる前記所定の数

閾値のうち、配置位置を修正しようとする閾値修正範囲を設定する第1のステップと、

前記閾値修正範囲の中央値と前記網点閾値データを構成する各閾値とを比較して、網点画像データを生成する第2のステップと、

生成された位置空間上の前記網点画像データを周波数空間上のデータに変換する第3のステップと、

前記周波数空間上のデータから前記網点の基本周波数成分より低い低周波ノイズ成分を含むデータを抽出する第4のステップと、

抽出した低周波ノイズ成分を含むデータを位置空間上の画像データに逆変換する第5のステップと、

前記網点閾値データの中で置換しようとする一つの閾値を選択して置換し、閾値の配置位置を修正した網点閾値データを生成する第6のステップとを有し、

前記第6のステップにおいては、

前記一对の閾値の一方を、

前記第2のステップで得られた網点画像データ中、非黒化画素であって、その非黒化画素位置に対応する前記網点閾値データ中の閾値の値が前記閾値修正範囲内の値をとる閾値であることを前提条件として、前記第5のステップで得られた逆変換された画像データ中、低周波ノイズ成分が最小の画素と対応する位置にある前記網点閾値データ上の閾値とし、

前記一对の閾値の他方を、

前記第2のステップで得られた網点画像データ中、黒化画素であって、その黒化画素位置に対応する前記網点閾値データ中の閾値の値が前記閾値修正範囲内の値をとる閾値であることを前提条件として、前記第5のステップで得られた逆変換された画像データ中、低周波ノイズ成分が最大の画素と対応する位置にある前記網点閾値データ上の閾値としたことを特徴とする網点閾値データの修正方法。

【請求項7】請求項6記載の方法において、前記位置空間上の網点画像データを周波数空間上のデータに変換する第3のステップでは、

前記位置空間上の網点画像データに基づいてオンオフする記録ビームにより記録材料上に走査記録するための記録ドットの形状と前記記録ビームの径に基づき前記位置空間上の網点画像データを構成する各画素の露光量を算出し、算出した画素毎の露光量に対して前記記録材料の濃度特性を参照して画素毎の濃度を算出し、算出した画素毎の濃度から構成される網点濃度データを周波数空間上のデータに変換するステップとすることを特徴とする網点閾値データの修正方法。

【請求項8】請求項6または7記載の方法において、前記周波数空間上で、前記低周波ノイズ成分を含むデータを抽出する前記第4のステップでは、人間の視覚特性により重み付けして抽出するようにしたことを特徴とする網点閾値データの修正方法。

50 前記網点閾値データを構成する閾値がとる前記所定の数

【請求項9】請求項6～8のいずれか1項に記載の方法において、

前記第6のステップの後、前記第1のステップにおける閾値修正範囲を、前記第2のステップにおける閾値修正範囲の最小値と前記中央値を最大値とする新たな閾値修正範囲に変更するとともに、前記第2のステップにおける閾値修正範囲の前記中央値を最小値とし、この最小値と前記閾値修正範囲の最大値との間の新たな閾値修正範囲に変更する第7のステップを有し。

この第7のステップの処理後に、前記第2のステップでは、前記第7のステップで変更された新たな閾値修正範囲の中央値と前記第6のステップで修正された網点閾値データを構成する各閾値とを比較して網点画像データを生成するようにして、前記第2、3、4、5、6および第7のステップを、前記第6のステップにおける置換可能な閾値対がなくなるまで繰り返して、最終的な修正後の網点閾値データを得るようにしたことを特徴とする網点閾値データの修正方法。

#### 【発明の詳細な説明】

##### 【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、網点画像データを取り扱うカラースキャナ、イメージセッタ、CTP装置、複写機、DCCP等の印刷分野機器に適用して好適な網点画像データの修正方法およびその装置。前記網点画像データを生成するための網点閾値データの修正方法に関する。

##### 【0002】

【従来の技術】印画紙あるいはフィルム上に2値（例えば、レーザビームのオンオフにより黒化部分と非黒化部分）からなる網点画像を形成するイメージセッタ等の網点画像出力装置においては、その出力解像度とスクリーン網数との干渉で生じるモアレ繩が、出力された画像上に発生する場合があることが指摘されている（特開平8-317212号公報参照）。

【0003】ここで、出力解像度とは、画像出力装置の解像度であり、dpi（ドットバーチン）、画素/インチ（dpiと同義）、または画素/mm等で定義される。また、スクリーン網数とは、単位長（1インチ）当たりに含まれる網点（網点セルともいう。）の列の数である線/インチ（線/mmに換算可能）で定義され、1 dpi（ラインバーチン）、線数、スクリーン周波数または網点周波数ともいわれる。

【0004】出力解像度とスクリーン網数との干渉により発生するモアレ繩は、網点の周期的なパターン、すなわち網点ピッチと走査線ピッチ間に生じる周期的な干渉繩である。このモアレ繩は、低周波のノイズ成分となって画像品質を劣化させる。

【0005】この低周波ノイズ成分を低減する技術をこの出願の発明者は、前記特開平8-317212号公報（第1の技術という。）および特開平9-200518

号公報（第2の技術という。）により提案している。

【0006】前記第1の技術は、2値網点画像データを発生する際に使用される閾値テンプレート（閾値閾値データともいう。）内の閾値の配列（配置位置）を工夫し、この閾値テンプレート内で黒化（非黒化）される画素数をなるべく揃えて低周波ノイズ成分の発生を低減しようとしたものである。また、前記第2の技術は、前記第1の技術における閾値テンプレート内の閾値の配列時に乱数を付加して、より一層、低周波ノイズ成分の発生を低減しようとしたものである。

##### 【0007】

【発明が解決しようとする課題】この発明は、このような課題および技術に関連してなされたものであり、より一層、低周波ノイズ成分を低減することを可能とするために新規な構成の網点画像データの修正方法およびその装置、網点閾値データの修正方法を提供することを目的とする。

##### 【0008】

【課題を解決するための手段】この発明によれば、位置空間上の網点画像データを周波数空間上のデータに変換した後、網点の基本周波数成分より低い低周波ノイズ成分を含むデータを抽出し、抽出した低周波ノイズ成分を含むデータを位置空間上の画像データに逆変換する。そして、逆変換された画像データ上のノイズ成分を含む画素と対応する位置にある前記網点画像データ上の画素を前記ノイズ成分が小さくなるように修正するよう正在している。

【0009】この場合、逆変換された画像データ上のノイズ成分を含む画素と対応する位置にある前記網点画像データ上の画素を前記ノイズ成分が小さくなるように修正する処理は、位置空間上での処理であり、見通しよく正確に修正を行うことができる。このように修正した後の網点画像データにより生成された網点画像上では、低周波ノイズ成分がほとんどなくなる。

【0010】なお、低周波ノイズ成分を含むデータを抽出するときに、人間の視覚特性により前記低周波ノイズ成分を重み付けして抽出するようにすることで、前記位置空間上の修正処理の精度が一層よくなり、結果として、網点画像上でより一層低周波ノイズ成分を低減することができる。

【0011】また、この発明の基本的な原理は、網点画像データばかりでなく、線数、角度、網形状が考慮された網点閾値データ（閾値テンプレート）にも適用することができます。

【0012】すなわち、所定の閾値修正範囲内の中央値と修正前の網点閾値データとを比較して網点画像データに変換した後、周波数空間上のデータに変換し、このデータから網点の基本周波数成分より低い低周波ノイズ成分を含むデータを抽出して、位置空間上の画像データ（ノイズ画像データ）に変換する。このノイズ画像データ

タと前記複点画像データを前記所定の閾値修正範囲内で比較して置換しようとする一対の閾値を選択して置換して、修正後の複点閾値データを生成するようにしている。

【0013】このようにすれば、複点閾値データ自体が、低周波ノイズ成分を発生しにくい閾値配列を有するものになる。

【0014】また、最初に複換する閾値対が決定した後、前記所定の閾値修正範囲を上下それぞれ半分の範囲に小さくし、小さくした各閾値修正範囲の中で、上述の処理を複換可能な閾値対がなくなるまで繰り返すことにより、低周波ノイズ成分の発生しにくい閾値配列（閾値配列位置）修正後の複点閾値データを得ることができる。

【0015】上述した全ての発明において、位置空間上の複点画像データを局数空間上のデータに変換する際、前記位置空間上の複点画像データに基づいてオンオフする記録ビームにより記録材料面上に走査記録するための記録ドットの形状と前記記録ビームの径に基づき前記位置空間上の複点画像データを構成する各画素の露光量を算出し、算出した画素毎の露光量に対して前記記録データの濃度特性を参照して複点単位毎の濃度を算出し、算出した画素毎の濃度から構成される複点濃度データを局数空間上のデータに変換することにより、出力装置の特性に適合して、低周波ノイズ成分を低減することができる複点画像データまたは複点閾値データを得ることができる。

【0016】

【発明の実施の形態】以下、この発明の一実施の形態について箇面を参照して説明する。

【0017】図1は、この発明の一実施の形態（第1の実施の形態）が適用された製版システム10の基本的な構成を示している。

【0018】図1例の製版システム10は、基本的に画像入力部14と画像処理部16と2値複点画像データ作成・修正部18と画像出力部24とから構成され、原稿画像12から読み取った画像を複点画像としてFILM上に形成するシステムである。

【0019】この場合、画像入力部14において、光源からの光が照射された副走行方向に移送される原稿画像12からの反射光または透過光が、リニアイメージセンサ等の光電変換装置に導かれて電気的に主走査され、その光電変換信号を通じて電気信号である画像信号（画素信号）に変換される。変換された画像信号は、A/D変換器により例えば、値0、1、…255をとる8ビットのデジタル画像データ（単に画像データともいう。）DAに変換される。

【0020】なお、画像入力部14としては、このようなスキャナに限らず、DVD等の画像記録ディスク（画像記録媒体）、通信ネットワーク、デジタルスチルカメラ

等、結果としてデジタル画像データを出力する機体であればよい。

【0021】画像入力部14から出力された画像データDAに対して、必要に応じて、画像処理部16により色補正処理、シャープネス処理の他、画像出力装置24の解像度に対応するための解像度変換処理等が行われて画像データGが作成される。

【0022】この実施の形態において画像出力装置24の解像度、すなわち出力解像度は、例として、7.2走査線/mmであるものとする。なお、この走査線/mmの表現は、スクリーン線数と紛らわしいので、以下、出力解像度は、7.2dpm (dot/mm) で表すものとする。ここで、dotは、上記のように1画素を意味する。

【0023】画像処理部16により所定の処理のなされた画像データGは、2値複点画像データ作成部20と2値複点画像データ修正部22とから構成される2値複点画像データ作成・修正部18のうち、2値複点画像データ作成部20に供給される。

【0024】図2は、2値複点画像データ作成・修正部18の詳細な構成を示している。この2値複点画像データ作成・修正部18は、ソフトウェアを用いてコンピュータにより実現することができる。ハードウェアにより実現することもできる。また、ソフトウェアとハードウェアとを混在させて実現することもできる。

【0025】図2において、2値複点画像データ作成部20は、比較部32、アドレス計算部34、スーパーセル閾値テンプレート（閾値データともいう。）36、および限属性入力部38から構成される。

【0026】一方、2値複点画像データ修正部22は、周波数変換手段としての高速フーリエ変換器（FFT）40、低速通過フィルタ（LPF）42、周波数G変換手段としての高速逆フーリエ変換器（IFFT）44、および修正部46から構成される。なお、周波数変換手段としては、高速フーリエ変換器40にかぎらず、ウェブレット変換手段を使用することができ、ウェブレット変換手段を使用したときには、周波数逆変換手段としてウェブレット逆変換手段を使用する。

【0027】図2において、2値複点画像データ作成部20に供給された画像データGは、入力ポート50を通じて比較部32の比較入力に供給される。また、画像データGからスーパーセル閾値テンプレート36上のx軸とy軸のアドレスを表すアドレスAD=xD (x, y)がアドレス計算部34により計算される。スーパーセル閾値テンプレート36は、その指定されたアドレスADに格納されている閾値（この場合、値0、1、…255をとる8ビットの閾値データ）Tを読み出して比較部32の基準入力に供給する。

【0028】スーパーセル閾値テンプレート36としては、網属性入力部38により指定された網属性（スクリ

ーン総数、網角度および網形状)に対応するものが使用される。なお、この実施の形態において、例として、スクリーン総数は175枚であり、網角度は45°、網形状はスクエアに指定されているものとする。

【0029】スーパーセルは、複数の網点セル(網点)から構成されている。一般に、網点生成技術分野においては、出力解像度により定まる画素グリッド上にスーパーセルを設定し、設定したスーパーセルを網点セルに分割し、分割した網点セル内の各面素に対応して閾値を割り当てて網点閾値を生成するようになされており、閾値が割り当てられたスーパーセルをスーパーセル閾値テンプレートといふ。

【0030】スーパーセルに隣接して網点を生成する技術の参考文献としては、例えば、「書名：ポストスクリプト・スクリーニング、著者：ピーター・・フィンク、発行元：株式会社エムディエヌコーポレーション、発行日：1994年8月1日、初版第1刷」を挙げることができる。

【0031】複数の網点セルから構成されるスーパーセルを考えることで、スクリーン総数と網角度をより細かく変化させることができになり、指定されたスクリーン総数と網角度に、より近い値を選択することができるという有利さがある。

【0032】画素グリッドとは、無化単位である画素の集合体をいう。したがって、画素グリッドは、出力解像度で画素が被覆に整然と並んでいる状態をイメージすればよい。

【0033】この実施の形態において、スーパーセル閾値テンプレート36としては、上述した特開平8-317212号公報(第1の技術)または特開平9-2005118号公報(第2の技術)により公表されているものを使用している。

【0034】再び、図2において、比較部32では、画素データGと閾値データ(単に閾値ともいいう。)Tについて、G>T-1(オン、黒化)、G<T-0(オフ、白抜け、非黒化)の大小比較演算を行い、その比較演算結果の1個または0個をとる2値網点画像データ(2値データ、2値網点画像データ、網点画像データ、またはデジタル網点データともいいう。)Hを作成し、2値網点画像データ修正部22を構成するフーリエ変換手段である高速フーリエ変換器40と、修正部46の一方の入力に供給する。

【0035】この2値網点画像データHは、位置空間(実空間)上の画素データである。ここで、位置空間上のデータとは、x-y平面上で定義される座標上のデータであることをいう。この位置空間上の2値網点画像データHが、高速フーリエ変換器40により、周波数空間上のデータS1に変換され、遅断周波数の網点の基本周波数成分(スクリーン総数成分)に設定された低速通過フィルタ42に供給される。ここで、周波数空間上のデータ

とは、x-y軸を周波数軸として、その周波数平面上で定義される座標上のデータであることをいう。

【0036】低速通過フィルタ42は、周波数空間上のデータS1から網点の基本周波数成分(スクリーン総数成分)より低い周波数の低周波ノイズ成分を含むデータS2を抽出して、高速フーリエ変換器44に供給する。

【0037】高速通過フーリエ変換器44は、周波数空間上で抽出された低周波ノイズ成分を含むデータS2を、位置空間上の画素データ(ノイズ画像データといふ。)Nに変換して修正部46の他方の入力に供給する。

【0038】修正部46は、ノイズ画像データN中のノイズ成分を含む画素と対応する位置にある2値網点画像データH中の画素を前記ノイズ成分が小さくなるように修正し、修正後の2値網点画像データHをポート48を通じて画像出力装置24(図1参照)を構成する露光記録部26に供給する。なお、この2種類点画像データ修正部22における修正過程(修正処理)については、後に詳しく説明する。

【0039】露光記録部26では、この露光記録部26内に配された感光材料M上を、修正後の2値網点画像データHに応じてオントオフするレーザビーム(記録ビーム)により露光走査記録して、感光材料M上に潜像としての網点画像を形成する。網点画像の形成された感光材料Mは、自動露光機28により現像処理されて、顯微化された網点画像が形成されたフィルムMが作成される。このフィルムMが原版とされて刷版が作成され、刷版が印刷機に読みされ、読みされた刷版に対してインキが付けられる。刷版に付けられたインキが印刷紙等のシート上に転写されることで、シート上に画像が形成された所望の印刷物を得ることができる。

【0040】なお、この発明は、原版としてのフィルムMをに出力する画像出力装置24ではなく、図1に示すように、修正後の2値網点画像データHより刷版Pを直接出力することの可能な画像出力装置であるCTP(computer to plate)出力機24aに適用することができる。CTP出力機24a内では、感光材料Mがレーザビーム(記録ビーム)により走査記録されることで、直接、刷版Pが得られる。

【0041】次に、2値網点画像データ修正部22の作用について、さらに具体的に説明する。

【0042】この実施の形態では、スーパーセル閾値テンプレート36の大ささを119画素×119画素分とする。すなわち、網点閾値データの横り返しの最小単位を119画素×119画素とする。

【0043】2値網点画像データGに係る出力解像度を72ドット/mm(頭端/mm)とする。1画素の大きさは、1.3、9μm(1mm÷72)角になる。

【0044】上述したように、スクリーン総数を175線(LPI)=6.89線/mm、網角度を45°とし

ている。したがって、1個の網点の大きさは  $1.45 \mu m$  ( $2.4, 5mm + 1.75$ ) 角になる。

【0045】2値網点画像データGにより表される網点画像として、網点パーセントが50%の平均を考へる。ここで、網点の基本周波数は、ほぼスクリーン総数に等しく、 $6.89 (c/mm : サイクル/mm)$  と考えることができる。

【0046】このような設定のもとでの、比較部32により得られた1個のスーパーセルに係る $119$ 画素 $\times$  $119$ 画素の2値網点画像データHによる網点画像(ピットパターン)と考えることができる。(図3に示す。なお、この実施の形態では、理解の容易化のために、2値網点画像データ修正部22による処理を行わなかった場合に、フィルムFと最終的な印刷物上に形成される網点画像は、図3に示したものと同一の網点画像が形成されるものとする。この図3から2値網点画像データHは、xy平面上で定義された座標上のデータ、すなわち位置空間上のデータ(z軸のデータ)を考えることができる。)が、値0(非黒化)または値1(黒化)をとるデータであることが理解される。

【0047】図3において、例として描いた1個の網点50内には、約 $109$ ( $1.452 / 13.92$ )個の画素が含まれる。

【0048】この2値網点画像データHを、2次元のFFT40により高速フーリエ変換して、周波数空間上のデータS1に変換する。

【0049】図4は、図3に示す位置空間上の2値網点画像データHに対応する、高速フーリエ変換後の周波数空間上のデータS1のFFTパワーピークを示している。 $x$ 軸と $y$ 軸は、周波数( $c/mm$ )を示し、 $z$ 軸はパワーを示している。パワーは、全体で1になるように規格化している。

【0050】この図4の周波数空間上のデータS1において、中心座標( $x, y$ ) =  $(0, 0)$ における値が約0.5のパワーP1は、平場と仮定したときの網点パーセントの50%に対応する基本成分であり、ノイズ(雜音)ではない。また、xy平面上、中心座標( $x, y$ ) =  $(0, 0)$ から各45°方向上の座標( $x, y$ ) =  $(5, 5), (-5, 5), (-5, -5), (5, -5)$ 付近の座標位置に存在する値0.2程度のパワーP2~P5も、網の基本周波数 $6.89 (c/mm)$ に対応するパワーであり、ノイズではない。なお、例えば、パワーP2が存在する正確なx、y座標は、 $5\sqrt{2}$ ではなく、 $6.89\sqrt{2} = 4.87$ として計算することができる。

【0051】モア繩は、網の周波数以下の周波数で発生する干涉現象であることを考へると、これら4点の座標( $x, y$ ) =  $(5, 5), (-5, 5), (-5, -5), (5, -5)$ で囲まれた領域Q(図5のハッチング領域も参照)内に存在する周波数成分がモア繩と関

係するノイズ成分であることが理解される。

【0052】図6は、領域Qを含む部分の図3のFFTパワー図の拡大図である。領域Q内に小さいながらも凹凸、すなわちパワー成分が存在することが分かる。

【0053】次に、この領域Q以外の高周波成分を除去するために、領域Qに対応する逆低周波数を有する低域通過フィルタ42を作用させ、領域Q内の低周波成分を含むデータを抽出する。換言すれば、周波数空間上のデータS1から網点の基本周波数成分より低周波ノイズ成分を含むデータS2を抽出する。なお、このとき、直流成分であるパワーP1も除去しておく。この直流成分の阻止めを考慮した場合に、低域通過フィルタ42は正確には帯域通過フィルタであるが、低周波ノイズ成分を含むデータを通過させるという意味で便宜上低域通過フィルタといっている。

【0054】次いで、IFFT44により、低域通過フィルタ42により抽出された低周波ノイズ成分を含むデータS2を逆フーリエ変換して位置空間(実空間)上のデータ、すなわちノイズ画像データDにする。

【0055】図7は、位置空間上における $119$ 画素 $\times$  $119$ 画素領域上に馬鹿園的に表示したノイズ画像データNを立体的に示している。すなわち、もとの画面上で低周波の濃度のうねりが3次元画面上の山や谷で抽出されていることが理解される。

【0056】そこで、修正部46では、ノイズ画像データN中のノイズ成分を含む画素と対応する位置に存在する前記2値網点画像データH(図3参照)中の画素をノイズ成分が小さくなるように修正する。

【0057】すなわち、ノイズ画像データN中のピーク部分(濃度の最大値側のピークである山の頂上)と、濃度の最小値側のピークである谷の底部kからなる。)をノイズ成分を含む画素と考え、この山の頂上jの画素位置に対応する(面積位置と同一座標位置にある)2値網点画像データH中の画素データが1(黒化)である場合に、その画素データを0(非黒化)に反転する。また、谷の底部kの画素位置に対応する(画素位置と同一座標位置にある)2値網点画像データH中の画素データが0(非黒化)である場合には、その画素データを1(黒化)に反転させて2値網点画像データHを修正して、修正後の2値網点画像データHを作成する。なお、このとき、網点50の黒化部分から孤立する黒化画素点がないように修正する。

【0058】低周波ノイズ成分の除去を精度よく行うには、FFT40による周波数変換から修正部46による画素置換の作業を繰り返し行う必要がある。これは、低周波成分の山、谷(濃度の山、谷)の位置が、1画素の位置をうなぎように変化するからである。そのため、1対の画素を置換する作業(山の頂上jの画素位置に対応する2値網点画像データH中の画素データが1である場合には、その画素データを0に反転し、谷の底部kの画素

位置に対応する2値構点画像データH中の画素データが0である場合には、その画素データを1に反転する作業)を行う毎に直後の2値構点画像データHに対してFFT40によるフーリエ変換を行い、LPP42により低周波成分を抽出し、IFFT44による逆フーリエ変換の作業が必要となる。ここで、一对毎に画素の置換を行う理由は、スーパーセル全体での濃度が変化しないようにするためである。換算すれば、2値構点画像データHの修正後にも濃度を保存するためである。

【0059】このようにして作成した修正後の2値構点画像データH'aのビットパターンを図8に示す。図8から分かるように、例として挙げた構点の形状が、構点0(図2参照)から構点50aに修正(補正、変更)され、新たに黒化された画素60、新たに非黒化された画素61等が現れていることが分かる。

【0060】この修正後の2値構点画像データH'aに基づき画像出力装置24で露光現像されたフィルムF上の構点画像からは、モア織をほとんど隠蔽することができなくなる。

【0061】確認(検証)のために、画素を置換して修正後の2値構点画像データH'aを再びFFT40により高通フーリエ変換したときの、窓の基本周波数より低周波の領域Q近傍のパワー図を図9に示す。また、図10に、低域通過フィルタ42を通して位相空間(其空間)上にフーリエ逆変換したデータであるノイズ画像データN'aの鳥瞰図を示す。図9から、領域Q内でのノイズ成分のパワーがほとんどなくなっていることが理解される。また、図10からノイズ画像データN'a上のうねり(振幅)が減少していることが理解される。

【0062】なお、上述の実施の形態においては、FFT40により2値構点画像データHを高速フーリエ変換した後のデータS1中、領域Q以外の高周波成分を低域通過フィルタ42により除去する際に、図11に示す人間の視覚特性65により重み付けして抽出するようになっている。このため、図7に示したように、IFFT44によるフーリエ逆変換後のノイズ画像データN'a、すなわち低周波成分が人間の目に根拠しやすいように重み付けられた图形となっている。

【0063】図11に示すように、人間の視覚特性65は、周波数0、8(c/mm)近傍で最大感度を有する特性である。

【0064】なお、上述の実施の形態においては、2値構点画像データHを対象としているが、この発明は2値構点画像データHに限らず、4倍、8倍等をとる多値構点画像データにも適用することができる。

【0065】次に、この発明の他の実施の形態(第2の実施の形態)について説明する前に、この第2の実施の形態にも適用される上述した第1の実施の形態におけるモア織を低減し得る修正後の構点画像データH'aを作成する基本的なアルゴリズムBALGについて図12の

フロー図を参照して説明する。このフロー図に基づく処理は、ソフトウェアを利用してコンピュータにより実行することができる。なお、図12のフロー図中、理解を容易にするために、上述の図1~図11に示したものと対応するものには同一の符号を付けている。

【0066】すなわち、この基本的なアルゴリズムBALGでは、位置空間上の多值(2倍、4倍、8倍等)構点画像データHを周波数空間上のデータS1に変換し

(ステップR1)、この後、構点の基本周波数成分より低い低周波ノイズ成分を含むデータS2を抽出する(ステップR2)。抽出した周波数空間上の低周波ノイズ成分を含むデータS2を位置空間上の画像データNに逆変換する(ステップR3)。そして、逆変換された画像データN上のノイズ成分を含む画素と対応する位置にある構点画像データH'aの画素を対比してノイズ成分が小さくなるように修正する(ステップR4)ことで修正後の構点画像データH'aを得る。

【0067】次に、この他の実施の形態(第2の実施の形態)について構点閾値データ作成アルゴリズム

20 TALGを表す図13に示すフロー図に基づいて説明する。なお、このフロー図に基づく処理もソフトウェアを利用してコンピュータにより実行することができる。また、以下に参照する図面において、図1~図12に示したものと対応するものには同一の符号を付け、その詳細な説明を省略する。

【0068】まず、この他の実施の形態について概略的に説明する。この他の実施の形態は、2値構点画像データ作成部20(図2参照)内の比較部32で2値構点画像データHを作成する際に使用されるスーパーセル閾値テンプレート(構点閾値データ)36を構成する各閾値の配列(配置位置)を一定の処理ステップにより置換変更することで、出力されるフィルムF上でモア織を低減することのできる修正後のスーパーセル閾値テンプレート36を生成するものである。

【0069】そこで、まず、初期設定処理部70により初期設定処理が行われる。この初期設定処理では、修正前のスーパーセル閾値テンプレート(構点閾値データ)36が生成されるとともに、後述する閾値修正範囲が決定される。

40 【0070】スーパーセル閾値テンプレート36は、緯数、角度、形状を考慮して生成することができるが既存のものでもよい。既存の修正前のスーパーセル閾値テンプレート36としては、例えば、上述した特開平8-317212号公報(第1の技術)または上述した特開平9-200518号公報(第2の技術)により作成したものを使いいることができる。

【0071】第1の技術によるものの閾値配列を説明すると、スーパーセルを構点セルに分割して閾値T=0、1、2、3、…、N-3、N-2、N-1、Nを画面に割り当てるとき、スーパーセルを、図14にその一部を

示すように、相互に重複部分を有するハイライト点中心の網点（黒化が中央から始まる網点） $H_{hc}$ とシャドウ点中心の網点（非黒化が中央から始まる網点） $H_{sc}$ に分割する。

【0072】ここで、相互に重複部分を有するとは、実際の4角形で描いているハイライト点中心の網点 $H_{hc}$ の頂点が、頂点の4角形で描いているシャドウ点中心の網点 $H_{sc}$ の中心に一致することをいう。そして、ハイライト点中心の網点 $H_{hc}$ 内の各画素に順次割り当てられる閾値 $T=0, 1, 2, 3, \dots$ と、シャドウ点中心の網点 $H_{sc}$ 内の各画素に順次割り当てられる閾値 $T=N, N-1, N-2, N-3, \dots$ を交互に定めるようにして置く。

【0073】すなわち、まず、ハイライト点中心の網点 $H_{hc}$ の中心近傍に閾値 $T=0$ を割り当て、次に、シャドウ点中心の網点 $H_{sc}$ の中心近傍に閾値 $T=N$ を割り当てる。以下その回りに順次、閾値 $T=1$ ～閾値 $T=N-1$ ～閾値 $T=2$ ～閾値 $T=N-2$ ～閾値 $T=3$ ～閾値 $T=N-3$ ～の順で交互に割り当てることで、スーパーセル閾値テンプレート（網点閾値データ）36が得られる。

【0074】一方、第2の技術によるものでは、この第1の技術によるものに対して閾値が割り当てられる画素の座標に網点毎に異なる乱数を付加して黒化順序を定めることで、図15にその一部を示すような網点閾値データ36が得られる。

【0075】このようにして得られた網点閾値データ36が、図13中、比較部32の比較入力に供給される。

【0076】次に、初期設定処理部70において、網点閾値データ36を構成する閾値Tがとる所定の数値範囲、例えば、0, 1, …, 255のうち、配置位置を修正しようとする閾値修正範囲を閾値修正範囲・ライスレベル設定部71に設定する。

【0077】ここで、閾値修正範囲の設定は、修正前のスーパーセル閾値テンプレート36に対応するフィルムFを画像出力装置24を利用して各閾値毎に出力し、モアグレーフの目立つ範囲で決めることにより、その後の処理を効率的に行なうことができる。閾値T毎のフィルムFとは、例えば、閾値T=1, 2, 2の場合には、閾値T=0, 1, 2, …, 1, 2, 2が配列されている画素位置が黒化され、閾値T=1, 2, 3, 1, 2, 4, …, 2, 5が配列されている画素位置は黒化されていない（非黒化）状態のフィルムFをいう。各閾値毎に出力したフィルムF上で、モアグレーフが確認されたとき、モアグレーフが確認された近傍の閾値を閾値修正範囲に決定する。

【0078】このようにして決定された閾値修正範囲を値 $A_0 \sim B_0$ とする。値 $A_0 \sim B_0$ をとる閾値修正範囲の初期値を閾値修正範囲 $[A_0, B_0]$ と標記する。一般には、閾値修正範囲 $[A_i, B_i]$ と標記する。

【0079】閾値修正範囲 $[A_0, B_0]$ が閾値修正範

図・スライスレベル設定部71に設定されたとき、ライスレベル $T_{lh}$ が $T_{lh} = (A_0 + B_0) / 2 = T_0$ と閾値修正範囲 $[A_0, B_0]$ の中央値に計算され（図16A参照）、図13中、比較部32の基礎入力に供給される。

【0080】次に、比較部32では、網点閾値データ36とライスレベル $T_{lh}$ とを比較して2値化し、2値網点画像データ $H'$ を作成する。

【0081】以下、上述した2値網点画像データ修正部22での作用と同様に、図12に示した基本的なアルゴリズムBALGに基づき、2値網点画像データ $H'$ を、FFT40によりフーリエ変換して、周波数空間上のデータ $S'_1$ に変換する。これにより、図4に示したような、フーリエ変換後の周波数空間上のデータ $S'_1$ のFFTパワーバイグラムが得られる。

【0082】次に、上述したのと同様に閾値Q（図4、図5参照）以外の高周波成分を除去するために、閾値Qに対応する遮断周波数を有する低通波ノイズフィルタ42を作成させ、閾値Q内の低周波ノイズ成分を含むデータ $S'_2$ を抽出する。換算すれば、周波数空間上のデータ $S'_1$ から網点の基本周波数成分より低周波ノイズ成分を含むデータ $S'_2$ を抽出する。このとき、上述したように、図11に示した人間の视觉特性6-5により周波数空間上のデータ $S'_1$ を重み付けしておくと好適である。

【0083】次いで、IFFT44により、低周波ノイズ成分を含むデータ $S'_2$ を逆フーリエ変換して、図7に示したような位置空間（実空間）上のデータ、すなわちノイズ画像データ $N'$ が得られる。

【0084】次に、修正部72において、網点閾値データ36中で閾値を置換しようとする一対の画素（画素位置）を選択して、その画素位置に相当する網点閾値を置換し、閾値配列の修正された修正後の網点閾値データ36aを生成する。ここで、一対の画素とは、非黒化画素（以下、直感的な理解のために白画素ともいいう。）を黒化画素（以下、同様に黒画素ともいいう。）に置き換える画素と、黒画素を白画素に置き換える画素の組をいう。

【0085】そこで、まず、置換候補画素選択部73において、白画素を黒画素に置き換えるための選択条件を説明する。なお、黒画素を白画素に置き換えるための選択条件は、以下の選択条件中、用語「白画素」を用語「黒画素」に置換することで同様に定めることができる。

【0086】第1に置換候補画素は、白画素であることとされる。この条件により、2値網点画像データ $H'$ 中、白画素が選択される。

【0087】第2に置換候補画素位置の閾値Tの大きさは、閾値修正範囲 $[A_0, B_0]$ 内の値であることとされる。この条件により、2値網点画像データ $H'$ から選択された白画素の対応位置にある網点閾値データ36'の閾値T中、閾値修正範囲 $[A_0, B_0]$ 内の閾値Tを

有する画素が選択される。

【0086】第3に置換候補画素は、置換後に相形状を極端に崩さない白画素であることとされる。この条件には、白画素を黒画素に置換したとき、その黒画素の4辺に白画素が存在するような、いわゆる孤立画素状態とならないようにすることも含まれる。具体的には、例えば、図17に示すように、黒化画素群8'1、8'2に対して頂点のみで接している置換候補画素に選択された白画素8'3は孤立画素とされる。

【0089】また、例えば、図18に示すように、置換候補画素に選択された白画素8'4は、その4辺の一辺に黒画素8'5が接しており、その接している黒画素8'5が他の黒画素8'6と一辺のみ接している、このような白画素8'4は、网点形状を極端に崩すことになるので置換候補としては選択されない。この場合、黒画素8'5が2倍以上の黒画素に接している場合には、置換候補画素とされる。図18では、接している黒画素8'5が他の1個の黒画素8'6にしか接していないので、白画素8'4は置換候補画素として選択されない。

【0090】これら第1～第3の選択条件を全て満足する白画素のうち、フーリエ逆変換されたノイズ画像データN'中での値、すなわち低周波ノイズ成分が最小の（濃度が最も低い）画素を黒画素への置換可能画素の第1候補として選択する。

【0091】上述したように、白画素を黒画素に置き換えるべき選択条件は、上記第1～第3の選択条件中の用語「白画素」を用語「黒画素」に置き換えれば、同様に選択することができる。この場合、白画素への置換可能黒画素の第1候補は、黒画素を白画素に置き換えたための第1～第3の選択条件を全て満足する黒画素のうち、フーリエ逆変換されたノイズ画像データN'中での値、すなわち低周波ノイズ成分が最大の（濃度が最も高い）画素を白画素への置換可能黒画素の第1候補として選択する。

【0092】次いで、置換可能画素有り判定部74において、白黒一对の置換可能画素がある場合には、閾値データ置換部75において、その一对の置換可能画素を置換画素とし、その一对の置換画素の位置に相当する网点閾値データ3'6の閾値配列の修正を行う。すなわち、网点閾値データ3'6中で対応する一对の閾値を選択して置換し、閾値の配列を修正した修正後の网点閾値データ3'6aを生成する。

【0093】次いで、修正後の网点閾値データ3'6aを网点閾値データ3'6'にし、以降、比較部3'2による同一路理および閾値データ置換部75による処理を繰り返し、置換画素が存在しなくなるまで网点閾値データ3'6'の閾値配列を修正して修正後の网点閾値データ3'6aを得る。

【0094】上記のように修正後の网点閾値データ3'6aを得た場合であっても、孤立画素が発生する場合があるので、同一路理レベルTh=A0での置換可能画素がなくなったときに、孤立画素除去部76により修正後の网点閾値データ3'6aの中、孤立画素の除去を行う。この実施の形態では、孤立画素近傍の8画素（この8画素中には孤立画素とならない画素が存在することを前提とする）のうち、いずれかの画素の閾値との入れ替を行なうようにすることで孤立画素を修正することができる。

【0095】孤立画素除去部76における孤立画素の除去処理後に、閾値修正範囲・スライスレベル設定部71において閾値修正範囲[Ai, Bi]とスライスレベルThの再設定を行う。

【0096】一般的に、网点閾値データは、各濃度のビットパターンを構成したものと考えられるので、あるスライスレベルで閾値データの配列の置換修正を行なった場合、当該あるスライスレベルでの修正効果（補正効果）は、その周辺のスライスレベルにおいてもある程度の修正効果が及ぶものと考えられるので、1スライスレベル毎に閾値配列の修正処理を行う必要はない。実際には、スライスレベルの間隔として3～5スライスレベルの間隔で計算を行なえば十分である。また、閾値修正範囲[Ai, Bi]とスライスレベルThの設定は、以前に修正されたビットパターンに影響を与えないように、かつ、閾値修正の自由度、すなわち閾値修正範囲が広くなるよう考慮する必要もある。

【0097】そこで、この実施の形態では、閾値修正範囲[Ai, Bi]とスライスレベルThの初期値が、図30 30 16Aに示したように、それぞれ、閾値修正範囲[Ai, Bi]=[A0, B0]、スライスレベルTh=(A0+B0)/2=T0に設定されたとき、次に設定される閾値修正範囲[Ai, Bi]とスライスレベルThは、それぞれ、図16Bに示すように、閾値修正レベル[Ai, Bi]=[A1, B1]=[A0, (A0+B0)/2]、スライスレベルTh=(A1+B1)/2=T1と設定して、図13に示したアルゴリズムにより（初期設定処理部70による処理を除く）閾値配列の修正を行う。そして、さらに、閾値修正範囲[Ai, Bi]を閾値修正範囲[Ai, Bi]=[A2, B2]=[A0+(A0+B0)/2, B0]、スライスレベルTh=(A2+B2)/2=T2と設定して、図13に示したアルゴリズムTALGにより（初期設定処理部70による処理を除く）閾値配列の修正を行なうようにして、閾値配列修正処理（閾値配列位置置換処理）を繰り返す。

【0098】このような設定により、閾値配列修正処理を繰り返すことにより、最初のスライスレベルT0（一开始には、1前の閾値配列修正処理で設定されたスライスレベルTh）で作成されたビットパターンは、それ以

降の閾値配列修正処理の結果に影響されなくなる。

【0099】以下、同様に、図16Cに示すように、閾値修正範囲【A1, B1】とスライスレベルTHを決めて、図12に示したアルゴリズムBALGにより(初期設定処理部70による処理を除く)閾値配列の修正を行う。

【0100】このようにして、閾値修正範囲【A1, B1】が【A0, B0】の範囲での閾値配列が修正処理された修正後の統点閾値データ36aが得られる。

【0101】修正後の統点閾値データ36aは、図1の製版システム10を構成する2台統点画像データ作成部20のスーパーセル閾値テンプレート36(図2参照)として設定される。

【0102】なお、修正後の統点閾値データ36aを光ディスク等の記録媒体に保存して、例えば、イメージセッタ等、市販の機器設置に適用することができる。もちろん、通信ネットワークを介して、他のワークステーション等にダウンロードすることもできる。すなわち、いわゆるオフラインで生成した修正後の統点閾値データ36aは、それ自身で商品価値を有する。

【0103】次に、この発明のさらに他の実施の形態(第3の実施の形態)について説明する。

【0104】まず、この第3の実施の形態を概説的に説明する。上述の第1および第2の実施の形態では、統点画像データHが波状画像が、レーザビームにより走査記録される感光材料M、フィルムMあるいは耐版P等の記録材料上にそのまま同じ統点画像として現れることを前提としているが、実際にはレーザビームの形状やビームの強度、記録材料の特性により、そのまま同じ統点画像が現れるわけではない。

【0105】そこで、この第3の実施の形態では、周波数変換手段により周波数空間上のデータに変換しようと/or統点画像データを上述の第1および第2の実施の形態における統点画像データH、H'ではなく、その統点画像データH、H'に基づいてレーザビームにより露光記録される記録材料上の明るさ(明度、透過率、温度)をシミュレーションし(出力機シミュレーションという)、その明るさデータを周波数空間上のデータに変換することにより、より実際の出力画像に近い状態での低周波ノイズ成分の除去を行う。

【0106】なお、出力機シミュレーションに関する技術を、この出願の発明者は、特開平8-150587号明細書および図面に掲載している。

【0107】そこで、図1に示した露光記録部26またはCTP出力機24a内で記録材料である感光材料Mにレーザビームにより記録しようとする距離ドットの形状(この記録ドットの形状は、統点画像データH、H'(以下、統點となるので、符号Hを用いる。)があるする理想的なデジタル統点形状)と、レーザビームの仕

様であるレーザビームの形状(ビーム径)とに基づいて、感光材料Mに与えられる露光量(エネルギー量)を各画面毎に計算する。

【0108】図19中、右側の図は、統点画像データHにより感化される面積が1/3倍である記録ドットの形状(理想的なデジタル統点形状)PHを示している。

【0109】図19中、左側の図は、この横点を形成するためのレーザのオンオフ信号である統点画像データHの波形を示している。この図19例では、主走査線MS10は第1～第5の主走査線MS1～MS5までの5本分描いている。

【0110】例えば、最上段の第1の主走査線MS1についての左側の統点画像データH1に応じて右側のハッティングで示す部分の統点形状PH1が形成される。以下、同様に、第2～第5の主走査線MS2～MS5についての統点画像データH2～H5に応じて残りの統点形状PH2～PH5が形成される。なお、図19において、統点画像データHの横幅は、統点形状PHの座標に対応した位置幅として考える。

【0111】図20は、コンピュータによるシミュレーション計算で用いられるレーザビームBPのシミュレーション形状を示している。このレーザビームBPは、傾き $3.0\mu\text{m} \times 3.0\mu\text{m}$ 内でガウス分布を有しており、この図20例では、振幅値の最大値の $1/e^2$ (eは自然対数の底を表す。)で規定されるビーム径が $13.9\mu\text{m}$ になっている。振幅値の最大値は値1に規格化している。

【0112】図21は、統点画像データHによる露光量の計算の詳細な説明が供される図である。図21aの立ち上がりリエッジに係る点Q5でレーザビームBP(Q5)(図21b参照)が発生し、立ち下がりリエッジに係る点Q9でレーザビームBP(Q9)(図21b参照)が消滅する。

【0113】留意すべき点は、点Q5でレーザビームBP(Q5)が発生した場合、点Q1～点Q4の部分においても、そのレーザビームBP(Q5)の幅の部分のパワー(エネルギー)により露光されるという事実である。

【0114】したがって、例えば、点Q4の露光量は、図21cのハッティング部に示す積分の積分値として計算される。

また、点Q5の露光量は、図21dのハッティング部に示す積分(点Q1～点Q5までの領域)の積分値になる。さらに、点Q6の露光量は、図21eのハッティング部に示す積分(点Q2～点Q6までの領域)の積分値になる。なお、例えば、点Q6の露光量の算出の積分範囲が、図21eのハッティング部に示す領域(点Q2～点Q6までの領域)になる理由、逆に言えば、点Q1～点Q2の領域を計算に入れない理由は、点Q9の立ち下がり時点において、レーザビームBP(Q9)が消滅するので、図21bに示すそのレーザビームBP(Q9)の波形中、点Q6より左側(レーザビームBPの進行方

向後側)の板の部分では露光されないからである。

【0115】このようにして、露光量の計算が、図19に示す主走査MS1～MS5(絶点画像データH1～H5)の各1本毎に行われる。なお、実際上、図19に示した絶点画像データH、換算すれば、レーザの駆動信号の立ち上がり点と立ち下りり点におけるレーザビームBPの発生と消滅の際には、微視的には遅延(レーザビームBPの振幅が徐々に大きくなる遅延や、レーザビームBPの振幅が徐々に小さくなる遅延)が発生するので、その遅延分をも考慮して計算することが好ましい。

【0116】次に、このように計算により得られた絶点画像データHの露光量を濃度に変換する。この場合、所望のレーザ波長を有するレーザビームBPに係る露光量により既に形成された感光材料Mを、自動現像機2の現像条件により現像した場合の特性曲線を参照して濃度を求める。特性曲線は予めルックアップテーブルとして図示していないコンピュータのメモリに格納されている。

【0117】図22は、この場合の露光量 $1.0 \text{ g E}$ に対する濃度D(Density)の特性曲線(一般には、感光材料特性、いわゆるガンマ特性曲線と呼ばれている)。9.0を示している。なお、C T P出力機24aの場合においても、同様の特性曲線を予め得ることができる。

【0118】この図22の特性曲線9.0から、例えば、露光量 $1.0 \text{ g E}$ の値が $1.0 \text{ g E} = E = 1$ であるとき、濃度Dの値は、 $D = 2.0$ になることが分かる。

【0119】この特性曲線9.0を利用して、絶点画像データHの各画素位置における露光量を求めることができます。

【0120】図23は、このようにして露光量から濃度を求めた場合の濃度のシミュレーション図を示している。この図23では、図3に示した絶点画像データHのうち、 $205(=4.5 \times \sqrt{2}) \mu\text{m} \times 205 \mu\text{m}$ の大きさの領域9.1内の模式的な濃度分布を示している。

【0121】そして、このようにして得られた絶点画像データHに対応する各画素毎の濃度データからなる濃度データ(絶点濃度データという。)に対して、上述した図12、図13に示したアルゴリズムBALG、TALGに従い、FFT40により周波数空間のデータS1、S1'に変換し、絶点の基本周波数成分より低い低周波ノイズ成分を含むデータS2、S2'を抽出する。抽出した周波数空間上の低周波ノイズ成分を含むデータS2、S2'を位置空間上のノイズ画像データN、N'に逆変換し、逆変換したノイズ画像データN、N'上のノイズ成分を含む画素と対応する位置にある元の絶点画像データH、H'上の画素をノイズ成分が小さくなるよう修正することによって修正後の絶点画像データH'a、修正後の絶点閾値データ36aが得られる。

【0122】この第3の実施の形態によれば、出力機の

特性を考慮した修正後の絶点画像データH'aおよび絶点閾値データ36aを得ることができる。

【0123】なお、この発明は、上述の実施の形態に限らず、この発明の要旨を逸脱することなく、種々の構成を採り得ることはもちろんである。

【0124】

【発明の効果】以上説明したように、この発明によれば、位置空間上の絶点画像データまたはこの絶点画像データを出力機および記録材料の特性を考慮して変換した濃度分布データを、一旦、周波数空間上のデータに変換した後、低周波成分を抽出し、これを逆変換したノイズ画像データと前記絶点画像データを比較し、絶点画像データの閾値配列またはこの絶点画像データを生成するための絶点閾値データの閾値配列を修正するといううきめで革新な構成により、出力解像度と周の周波数(スクリーン倍数)との干渉により発生する絶点画像上の低周波ノイズ成分を低減することができるという効果が達成される。

【図面の簡単な説明】

20 【図1】この発明の一実施の形態が適用された製版システムの構成を示すブロック図である。

【図2】図1例中、2倍絶点画像データ作成・修正部の詳細な構成を示すブロック図である。

【図3】修正前の2倍絶点画像データにより表される位置空間上の画像を示す線図である。

【図4】図3例の修正前の2倍絶点画像データを高速フーリエ変換したときのFFTパワーを示す線図である。

【図5】抽出しようとする低周波成分の領域の説明に供される線図である。

【図6】抽出しようとする低周波成分の領域を拡大したFFTパワーを示す線図である。

【図7】抽出した低周波成分を逆フーリエ変換したときの位置空間上での低周波成分の形状を示す線図である。

【図8】修正後の2倍絶点画像データにより表される位置空間上の画像を示す線図である。

【図9】修正後の2倍絶点画像データを高速フーリエ変換したときの低周波成分近辺のFFTパワーを示す線図である。

【図10】修正後の2倍絶点画像データを高速フーリエ変換し、それを逆フーリエ変換したときの位置空間上で低周波成分の形状を示す線図である。

【図11】人間の視覚特性の説明に供される特性図である。

【図12】この発明の基本的な原理のアルゴリズムを示すフロー図である。

【図13】この発明の他の実施の形態の説明に供されるアルゴリズムを示すフロー図である。

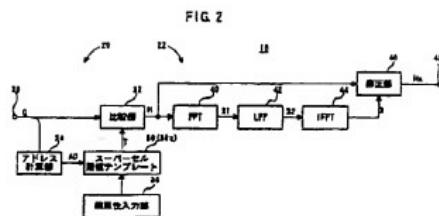
【図14】絶点閾値データの例を示す図である。

【図15】絶点閾値データの他の例を示す図である。

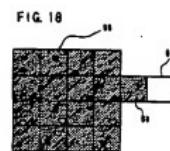
【図16】図1A～図1Cは、それぞれ、閾値修正



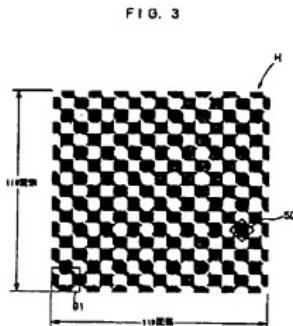
[図2]



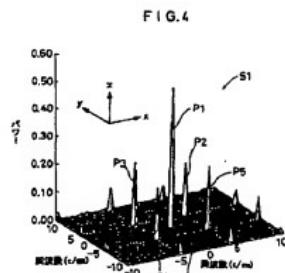
[図18]



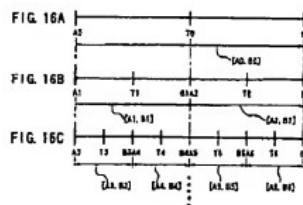
[図3]



[図4]



[図16]



[圖 5]

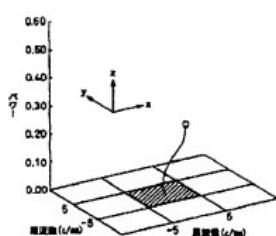


FIG. 5

(图 6)

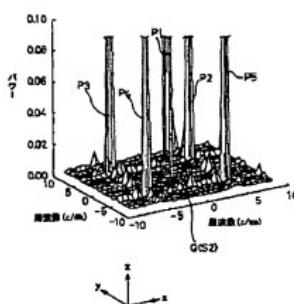


FIG. 5

(図7)

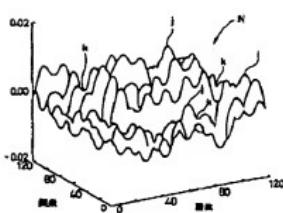


FIG. 7

〔圖8〕

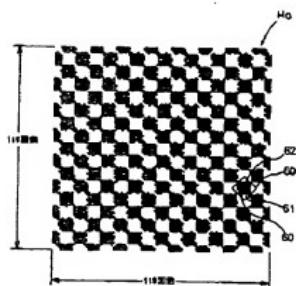


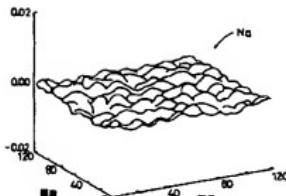
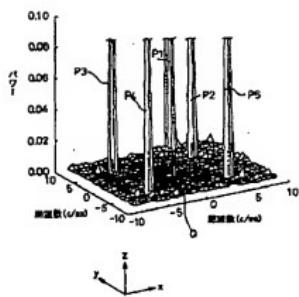
FIG 8

[図9]

[図10]

FIG. 9

FIG. 10

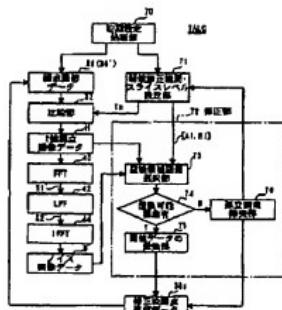
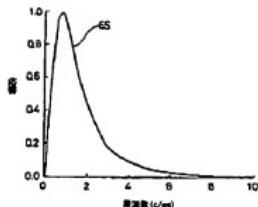


[図11]

[図13]

FIG. 11

FIG. 13



[图 1-4]

(図15)

FIG. 14

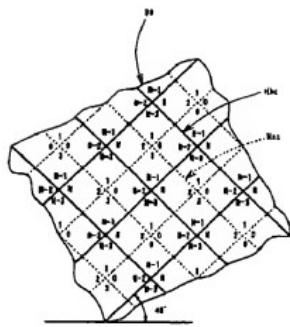
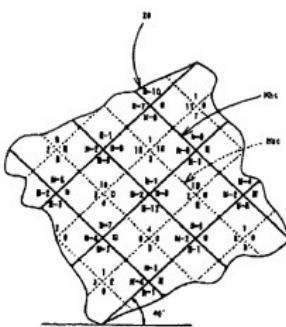


FIG. 15



(图17)

[圖20]

**FIG. 17**

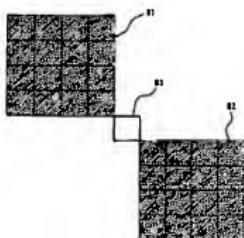
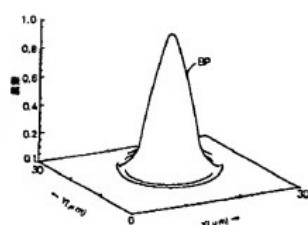
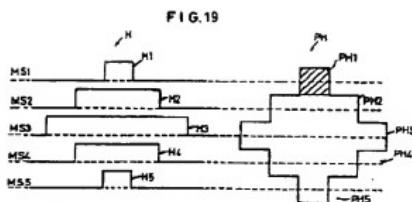


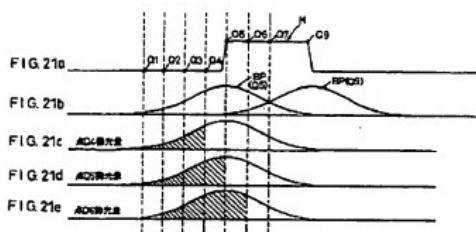
FIG. 20



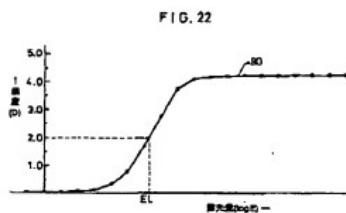
[図19]



[図21]



[図2.2]



[図2.3]

